

生活援助論演習 I

科目到達目標: ① 看護基本技術に共通する感染予防・ボディメカニクスの知識・技術が習得できる。

② 看護援助の思考プロセスが理解できる。

③ 看護援助のための基本的機能の視点が理解できる。

科目責任者(所属教室): 奥田 玲子(基礎看護学)

連絡先: 教員室 TEL: 0859-38-6303 E-mail: reokd@tottori-u.ac.jp

回数	月日	時限	講義室	授業内容	担当者	講座・分野・診療科	到達目標	授業のキーワード	
1	10/3(木)	3	111	科目オリエンテーション 看護行為に共通する援助技術	奥田 玲子 深田 美香 笠城 典子 藤原 由記子 山本 陽子 未定 非常勤講師 上灘 紳子 非常勤講師 和田 嵩	基礎看護学	・看護実践と看護技術のつながりについて理解する。 ・看護援助の思考プロセスを知る。 ・看護援助のための基本的機能の視点(環境整備、コミュニケーション、ボディメカニクス、倫理、安全・安楽)を知る。	看護実践、看護技術、 看護援助のため基本的機能 (環境整備、コミュニケーション、ボディメカニクス、 倫理、安全・安楽)	
2		4							
3	10/10(木)	3	実習室	感染予防を推進する技術 感染症を成立させる要素と成立過程 衛生的手洗い・個人防護具の着脱			・感染成立のしくみ、感染予防策の基本的な考え方を理解する。 ・衛生的手洗い、個人防護具着脱の方法を習得する。	感染成立の要素 スタンダードプリコーション 衛生的手洗い、個人防護具	
4		4							
5	10/31(木)	3	実習室	効率的で安楽な動きをつくり出す技術 ボディメカニクスの基本原則			・ボディメカニクスの基本原則を理解する。 ・ボディメカニクスを効果的に活用するための力学作用を理解する。	ボディメカニクス、 力のモーメント・作用・反作用・摩擦力 寝返り、起き上がり、起立・着座動作	
6		4							
7	11/7(木)	3	111 実習室	快適な環境をつくる技術 病室と病床の環境整備 ベッドメイキング			・快適さを保つ環境の諸要素について理解する。 ・病室および病床の環境整備について理解する。 ・基本的なベッドメイキングの方法を習得する。	環境の諸要素、フライハシー 病室・病床の環境 ボディメカニクスの基本原則 ベッドメイキング	
8		4							
9	11/8(金)	3	実習室	ベッドメイキング			山本 陽子	・基本的な体位の種類と特徴を理解する。 ・安楽な体位を保持するための方法を理解する。 ・ボディメカニクスを効果的に活用した体位変換の方法を習得する。	体位に与える圧迫部位、体圧分散 安楽な体位保持の原則 ボディメカニクスの基本原則
10	11/14(木)	3	実習室	効率的で安楽な動きをつくり出す技術 安楽な体位の保持・体位変換					
11		4							
12	11/28(木)	2	共E31	活動・運動を支援する技術 活動・運動の生理学的メカニズム 活動・運動のニーズのアセスメント			非常勤講師 上灘 紳子	・活動・運動に関する生理学的メカニズムを理解する。 ・活動の「ロード」に関するアセスメントの視点を理解する。 ・活動の「ロード」の充足状態を対象者の情報からアセスメントし、必要な援助を判断する。 ・移動にかかわる技術の基本的留意点をふまえ、対象者に応じた実施計画を立てる。 ・援助を実施・評価し、安全・安楽・自立性を考慮したよりよい援助方法を検討する。 ・事例における移動の援助について基本的機能の視点から理解を深める。	活動、運動機能の評価、廃用症候群 体位変換、車椅子、ストレッチャー、 ボディメカニクスの基本原則 活動のロード、情報のアセスメント、 必要な援助の判断、 援助の実施計画、 援助の実施・評価、 看護援助のための基本的機能 (環境整備、コミュニケーション、ボディメカニクス、 倫理、安全・安楽)
13		3							
14	12/5(木)	3	実習室	活動・運動を支援する技術 車椅子 移乗・移送 基本的な留意点 事例を用いた援助			非常勤講師 和田 嵩		
15		4							
16		5							
17	12/19(木)	2	実習室	活動・運動を支援する技術 ストレッチャー 移乗・移送 基本的な留意点 事例を用いた援助					
18		3							
19		4							

回数	月日	時限	講義室	授業内容	担当者	講座・分野・診療科	到達目標	授業のキーワード			
20	12/25(水)	3	111	食事・栄養摂取を促す技術 食事に関する生理学的メカニズム 栄養状態のアセスメント	奥田 玲子 深田 美香 笠城 典子 藤原 由記子 山本 陽子 未定 非常勤講師 上灘 紳子 非常勤講師 和田 嵩	基礎看護学	<ul style="list-style-type: none"> ・食事に関する生理学的メカニズムを理解する。 ・食事のニーズに関するアセスメントの視点を理解する。 ・食事のニーズの充足状態を対象者の情報からアセスメントし、必要な援助を判断する。 ・食べるにかかわる技術の基本的留意点をふまえ、対象者に応じた実施計画を立てる。 ・援助を実施・評価し、安全・安楽・自立性を考慮したよりよい援助方法を検討する。 ・事例における食事の援助について基本的機能の視点から理解を深める。 	食事・栄養摂取、嚥下のしくみ、 栄養摂取の方法 食事のニーズ、情報のアセスメント、 必要な援助の判断、援助の実施計画、 援助の実施・評価 看護援助のための基本的機能 (環境整備、コミュニケーション、ホディメクス、 倫理、安全・安楽)			
21		4									
22	12/26(木)	3	実習室	食事・栄養摂取を促す技術 食事介助 事例を用いた援助							
23		4									
24	1/9(木)	3	実習室	生命の徴候を観察する技術 バイタルサインの観察・測定 体温・脈拍の観察・測定 基本的な留意点					非常勤講師 上灘 紳子 非常勤講師 和田 嵩	<ul style="list-style-type: none"> ・バイタルサインを観察する意義を理解する。 ・バイタルサインに影響を与える因子について理解する。 ・体温、呼吸、脈拍、血圧を正確に観察・測定する方法を習得する。 ・対象者の状態に応じたバイタルサイン観察・測定の実施計画を立てる。 ・実施を評価し、より適切なバイタルサイン観察・測定の方法を検討する。 ・援助の前後でバイタルサインを観察・測定することの目的や必要性について理解を深める。 	呼吸・脈拍・血圧・体温の調節メカニズム、 バイタルサインに影響する因子、 バイタルサインの観察・測定 バイタルサインの観察・測定結果の解釈
25		4									
26	1/23(木)	2	111 実習室	生命の徴候を観察する技術 呼吸・血圧の観察・測定 基本的な留意点							
27		3									
28		4									
29	1/30(木)	3	実習室	生命の徴候を観察する技術 体温・脈拍・呼吸・血圧の観察・測定 事例を用いた援助							
30		4									

教育グランドデザインとの関連:2、3、4、5、6、7

学位授与の方針との関連:1、2、3、4

授業のレベル:2

評価:小テスト50%、振り返りシート50%

実務経験との関連:病院現場における看護実践の経験がある教員、現役の看護師、理学療法士が、各自の経験を活かして指導する。

教科書: ナーシング・グラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術 メディカ出版

※到達目標・授業のキーワードを確認の上、予習・復習してください。